

事例番号:280236

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第三部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

1 回経産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

妊娠 28 週以降 骨盤位

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 37 週 6 日

10:00 予定帝王切開のため入院

#### 4) 分娩経過

妊娠 38 週 0 日

13:30 帝王切開にて児娩出、骨盤位

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:38 週 0 日

(2) 出生時体重:2706g

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.30、PCO<sub>2</sub> 55mmHg、PO<sub>2</sub> 16mmHg、

HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 26.2mmol/L、BE -1.2mmol/L

(4) アプガースコア:生後 1 分 9 点、生後 5 分 9 点

(5) 新生児蘇生:実施せず

(6) 診断等:

生後 6 日 退院

生後 8 ヶ月 定頸、寝返り

1 歳 0 ヶ月 頭蓋変形

1 歳 1 ヶ月 筋緊張軽度亢進

(7) 頭部画像所見:

1歳2ヶ月 頭部MRIで脳室の軽度拡張と脳実質の萎縮あり

## 6) 診療体制等に関する情報

(1) 診療区分:病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医2名

看護スタッフ:看護師2名

## 2. 脳性麻痺発症の原因

妊娠経過、分娩経過、新生児経過に異常は認められず、脳性麻痺発症の原因は不明である。

## 3. 臨床経過に関する医学的評価

### 1) 妊娠経過

(1) 妊娠中の管理は一般的である。

(2) 骨盤位妊娠に対して、文書同意を得て帝王切開分娩の方針としたことは一般的である。

### 2) 分娩経過

(1) 入院後から帝王切開までの一連の処置(分娩監視装置の装着、間欠的胎児心拍聴取)および分娩経過中(帝王切開時)の管理はいずれも一般的である。

(2) 臍帯動脈血ガス分析を行ったことは一般的である。

### 3) 新生児経過

新生児管理は一般的である。

## 4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

### 1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

B群溶血性連鎖球菌スクリーニングは妊娠33週から37週に実施することが望まれる。

【解説】「産婦人科診療ガイドライン-産科編2014」では、妊娠33週から37週での実施を推奨している。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

- ア. 原因不明の脳性麻痺事例について、情報を集積し原因の究明や対策についての研究が望まれる。
- イ. 地方自治体に対して、妊娠中の B 群溶血性連鎖球菌スクリーニングを、「産婦人科診療ガイドライン」で推奨する時期に公的補助下に一律に実施できる制度を構築するよう働きかけることが望まれる。

【解説】「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2014」では、膣分泌物培養検査 (GBS スクリーニング) を妊娠 33 週から 37 週に実施することを推奨しているが、検査費用の公的補助制度によって同時期の実施が難しい地域がある。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。